

○井爪昌一君 は豫て和歌山縣有田郡宮原村に於て開業し居られしが今般同郡金屋に移轉せられたり

○新宗一君 は今般都合により岡山縣病院内科勤務を辭任せられたり

○柏清二君 は豫て愛媛縣今治町藤原病院に勤務し居られしが今回辭職目下岡山縣病院外科に於て研究中なり

蒲原義貞君(舊姓島内) 君は大正元年岡山醫學專門學校を卒業し一年志願兵として入營し其勤務を終へ陸軍三等軍醫に任せられ郷里高知縣に於て開業し居られしが本月十四日香川縣善通寺に於て逝去せられ越へて同二十二日自宅て於て葬儀を営まれたりと洵に哀悼に堪へざるなり

秋山豪之君逝く 君は大正五年岡山醫學專門學校を卒業し島根縣鹿足郡畑迫病院に勤務し後山梨縣に於て開業し居られしが去る七月三十日急病を以て遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へざるなり

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は本月二十六日午後三時より岡山醫學專門學校に於て開會す筒井會長開會を報じ直ちに左の演説に移る

第一席 「クロールカルシウム」の凝血性催進作用

に就いて附「デモンストラチオン」

寛 繁君

前川 鼎君

當時凝血性催進物質として一般に使用されつゝある「クロールカルシウム」、食塩及「ゲラチン」の三種を選び、此等の種々の量を夫々家兎の靜脈内及腹腔内竝に皮下に注射するか、又は經口的に内服せしめ、其後種々の時期に於て採血し、之をライト氏法に従つて測定し、以て此等物質の凝血性催進作用發現の遲速、程度及持續等を比較し、次の如き結論に到達せり。

一、「クロールカルシウム」の靜脈内注射は其效力最顯

著にして到底食鹽水注射の比に非ず、「ゲラチン」の皮下注射に至りては其效力を論ずるの價值なし。

二、「クロールカルシウム」の皮下竝に腹腔内注射は其局所症狀強烈なるが爲め實用に適せず、且凝血性催進作用の著しき減弱を認む。其經口的服用も亦然り。

三、「クロールカルシウム」の凝血性催進作用は二乃至一〇%の間に於ては其注射用量の多寡に竝行するものにして、其稀釋度如何に關係せず。

四、「クロールカルシウム」の靜脈内注射は一珎毎に〇・〇二乃至〇・五の用量に於ては其増量と共に凝血作用發現の時期を著しく短縮せしむる事を得。

五、「クロールカルシウム」の凝血作用は前記の注射用量範圍内に於ては悉く注射後五時間以内に消失すべく、夫以上其作用を持続せしむる事を得ず。

最後に演者は自己の使用せるライト氏凝血作用測定法を供覽し、特に喀血、吐血及下血等に對し火急止血を要する場合に於ける「クロールカルシウム」注射の實際的應用を賞揚せり。(自抄)

第二席 色素性乾皮症患者供覽

田中徳治郎君

岡山縣病院皮膚科外來二七五九號大正七年九月四日初診二十歳の女子生後四五箇月の頃より顔面に小水泡狀皮膚炎を以て始まり現今顔面、項部、前胸部、前膊、手背、頭髮内等に本症特有の色素斑黑疣贅肉狀潰瘍結痂せる癩痕狀萎縮獨立せる白斑の存するを説明し尙ほ本症に常見る毛細血管擴張は本患者に於て認め得ざることを述べ入院當時の寫眞を供覽す。(自抄)

第三席 蛇咬傷の一例

西村敏也君

蛇咬傷の一例に付て述べ、且其症狀療法に付て説明せり。(自抄)

第四席 腎臟炎に伴へる血壓亢進の原因に就て

廣瀬耕一君

腎臟炎に伴へる血壓亢進の原因に關する從來の諸説を詳論して全く未決の問題なることを述べ將來の研究に對

して希望を述べたり
 尙ほ本問題の研究に追加せし自己の實驗成績を簡単に述べたり

腎臓の純粹の澱粉樣變性にては毎常殆ど血壓に變化なく又心臟の肥大を伴はざるこの事實を多數の澱粉樣腎にて確めたり此事實より進みて實驗的澱粉樣腎によりて此關係を明にせん企てしも未だ完成するに至らざりき、血壓亢進が腎の障害の時代償性に起るものならんこの説を確むる爲めに腎動脈を狹窄し利尿劑を應用して實驗せしも其結果陰性にして今日迄の實驗成績にては此説は成立せざるものゝ如し、血液中の血管收縮性物質を検するに際し人間の血液にて纖維素を去りしものゝ血管收縮性は循環血中の血小板數に略々比例し血小板が正常より遙かに少なき時には殆ど或は全く收縮性なきことを確めたり。(自抄)

右終りて閉會したるは午後五時半なり。

原著紹介

(雜誌順序不同)

- 國家醫學雜誌(第三七九號)
 再解剖ノ效果 (小南又一郎)
 火傷ト臟器毒ノ比較研究 (谷實抱)
 骨格ニ依ル年齡、性、身長等ノ鑑定(其二) (宮永學而)
- 日本鐵道醫協會雜誌(第四卷第八號)
 鐵道院ノ各工場ニ於ケル職工ノ負傷ニ關スル數字の觀察 (高松泰三)
 獨逸勞動保險梗概(其ノ五) (岡田甲子之助、影近清毅)
- 治療新報(第二五六號)
 疼痛竝ニ其療法(七) (勝部近義)
 カレル氏創療法(承前) (戸塚文郷)
- 治療新報(第二五七號)
 嘔吐竝ニ其ノ療法 (中川諭)
 カレル氏創療法(承前) (戸塚文郷)
- 日本學校衛生(第六卷第八號)
 特種兒童ノ調査 (三田谷啓)
 家庭ノ生活狀態ニヨル兒童發育上ノ差異附、體育上ノ一方針 (西龜三主)
- 京都醫事衛生誌(第二九三號)
 教材採擇ノ上ヨリ觀タル學校體育法 (熊谷主膳)
 不整脈ノ純臨牀的觀察 (小川瑛九郎)
- 校友會雜誌(愛知醫專)(第四六號)
 蛙蝌蚪尾部再生竝ニ上皮細胞内線維裝置ニ及ボス給與甲狀腺ノ影響 (前號ノ續キ) (長松英一)